

令和4年度 第6学年 授業改善推進プラン

台東区立蔵前小学校

1 児童の状況及び実態

外国語	<p>外国語に対して、一生懸命取り組み、コミュニケーションを楽しめる児童が多い。また、聞き取り理解する能力は育っているように感じられる。しかしながら、既習事項を「使う」段階になると、なかなかスムーズに話せなかったり、語彙が出てこなかったりする。また、「話す（やり取り）」においては、「質問→答え→相づち」の一往復しかできない児童がほとんどであるし、「話す（発表）」においては、相手意識をもってジェスチャーや問いかけの文を入れたり、文章の順番の工夫等ができる児童は少ない。</p> <p>「書く」については、アルファベットの表記を指導中であるが、半数以上の児童が4線に気を付けて正しくかけるようになってきたが、引き続き指導が必要な児童が一定数いる。また、文字の「音」については、自然に身につけている児童もいる一方でほとんど読めない児童もいる。2学期以降丁寧に指導する必要がある。</p>
-----	--

2 各教科の具体的な授業改善

	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
外国語	<p>○知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す 既習事項の定着 ・アルファベット 4線を意識した正しい表記 文字と音の認識 <p>○思考力・判断力・表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す（やり取り）での3往復以上のやりとり ・既習事項を使つての表現の充実 <p>○学びに向かう力、人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す（発表）における、相手意識をもつたジェスチャーや問いかけ文の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションゲームやSmall Talkなどの既習表現を使用する機会を設定して、繰り返し使わせて自然な定着を図る。 ・毎時間アルファベットタイムを取り、練習して定着を図る。 ・相づちや質問のバリエーションを段階的に教え、使う機会を設定する。計画的なSmall Talkやコミュニケーションゲームを行っていく。Small Talkの魅力的なテーマを工夫して話したい気持ちを引き出す。 ・魅力的な発表活動を単元の終末活動に設定し、伝えたい気持ちを引き出す。 ・発表単元では、観点を繰り返し抑え、意識させる。 【ジェスチャー・間・ストレス・スピード・繰り返し問いかけ等の相手を巻き込む文章・自分の意見・伝える順番 等】 ・友達同士でアドバイスする機会を作り、学び合わせる。 ・振り返りカードで、学んだことや自分の課題を把握させる。

